

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	社会福祉法人心愛会 障がい福祉サービス事業所コパン・クラージュ		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 12日		～ 2025年 12月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数) 12名
○従業者評価実施期間	2025年 12月 12日		～ 2025年 12月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療的ケアが必要なお子さま、重症心身障がいのあるお子さまを受け入れ、同年代の子ども達が経験している事と同等の活動、体験を提供しています。	児童期には、その時期に経験することが望ましい遊びや経験があります。障がいの有無に関わらず、様々な経験を保障しています。地域の園との交流も、年3回程度実施しています。	今まで以上に地域に出ていくことを心がけます。障がいのあるお子さんが地域に根付き生活していただけるよう啓発活動にも力を入れます。
2	保護者様が理想に近い形で就労を継続できるよう長時間の受け入れを行っています。	休憩時間も確保しつつ、メリハリのある活動時間を提供しています。特に、支援後延長でお受けするお子さんに関しては、疲労度も含め全職員で体調管理に留意し関わっています。保護者様が安心して就労できることを目指しています。	保護者様も自分の人生を、自分らしく生きていくことができるよう今後も保護者様が安心して就労できる支援体制を整えていきます。
3	重症心身障がいや医療的ケア児等の保護者会（おしゃべりクラブ）とダウン症の保護者会（マーガレットの会）を作り、事務局を担っています。	保護者様同士のつながりや情報交換、気持ちの発散の場を作っています。その中で短時間ではありますが、勉強会も実施しています。	勉強会の充実を行います、また、適時相談会なども行い、個別のご相談にも今まで以上に対応していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	特性により、さらに分化した小集団での発達支援を実施したいと考えていますが、環境設定に難しさを感じています。	限定することなく、様々な障がいのあるお子さまをお受けしているため、より一層の創意工夫やスキルアップが必要です。	カーテン等の仕切りを活用した更に分化された環境の設定、また適時相談室など空きスペースの活用なども検討します。
2	人工呼吸器など医療的な依存度の高い方も今後更に受け入れていく予定です。動きが活発なお子さまとの活動の中で、安全の確保には十分注意が必要だと感じています。		ベビーベッドの活用など適時必要な物品の準備を行い、ハード面に対応できることは可能な限り実施します。また、全職員が目となり、予測を立てながら事故防止に努めます。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 障がい福祉サービス事業所コバン・クラージュ

公表日 2026年 2月 28日

利用児童数 2025年 12月 1日現在 18名

回収数 12名

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	11	1				
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	11	1				
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	12					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	12					おもちゃの消毒など適時実施しています。床面も毎日消毒しています。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	12					研修や勉強会などを通し、さらにスキルアップしていきます。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	12					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	12				親よりもこどものことを見てくださって いるように思います。	こども達発達を見極めること、また保護 者様との対話を大切にしなが ら計画書を作成していきま す。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	12					
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	12					今後も保護者様との対話や関係機関から 頂いた情報を活用し【個別性のある計 画書】作りを心がけます。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	12				いろいろと工夫されていて、こどもも楽 しく通っています。	今後も創意工夫していきます。次年度も ご期待ください。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	12					
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	12					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	11			1		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	11	1				褒めて認める子育てを保護者様と共に学 んでいます。何かご不明な点があ れば、いつでもお問い合わせくだ さい。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	12					連絡ノート、出席ノートを活用し活動時の写真を貼 り付けるなど工夫しながら情報共有を行っていま す。不足等があればいつでもご連絡、お問い合わせ ください。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	12					適時ご相談に対応させていただきます。 お気軽にお問い合わせください。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	12					
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	12				とても楽しく“よし!また子育て頑張ろ う!”と思えるようなイベントをたくさん 企画して下さって、ありがとうございます。 す。	次年度も様々な企画を検討中です。ご都 合が合えば、是非ご参加願います。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	12					
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	12					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	12				楽しみにしています！	SNSの更新頻度をあげるなど、次年度も発信に力をいれます。子どもたちのイキイキとして表情をお届けします。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	12				SNS等への子どもの顔出しはNGにしていますが、いつも丁寧に対応して下さっておりありがとうございます。	
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	12					訓練の様子は広報誌やSNSでもアップしています。ご覧いただけますと嬉しいです。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	12					
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	12					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	12				丁寧過ぎるくらいしっかりと説明して下さるので、信頼して預けさせてもらっています。	ケガ等に注意すると共に、子どもらしさも損なわないよう遊びを提供したいと思います。いつもご理解とご協力、ありがとうございます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	12					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	12					また行きたい！そう感じていただける支援を行います。
	29	事業所の支援に満足していますか。	12				とても満足しています。 いつもありがとうございます！ 大満足です！！が、1つだけ・・・郡山にも同じような子どもの事業所を作って欲しいです！！！！	保護者様にも負けないくらい、愛情をたっぷりかけて関わらせていただきます。保護者様と協働で子育てをしていきます。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		障がい福祉サービス事業所コバン・クラージュ				公表日	2026年 2月 28日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		車椅子やバギー、座位保持など使用していない場合には活動室外へ移動し、可能な限り活動スペースを広げています。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	0			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	0	イルカの活動室に関しては構造化を意識して、またらっここの活動室に関しては、広々とした自由な活動空間を意識し環境設定を行っています。	様々な障がい特性のあるお子さまをお預かりしているため、環境設定の難しさを感じることもあります。職員全員で知恵を出し合いその時々での最善を検討していきます。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	1	毎日使用したおもちゃの消毒を行っています。	清掃員さんが午前中出勤され、活動室の衛生管理を行ってくださいます。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		カーテンで場を仕切ることで対応しています。	事前にカムダウンエリアの必要性が予測される場合には、相談室などを確保し対応していきます。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		月3回の部門会議を活用し、多職種で検討を行っています。	案がでた時点で、まず動いてみることを心がけています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		それぞれの職種が集まり、異なる視点を入れながら意見交換を行っています。	案がでた時点で、まず動いてみることを心がけています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		可能な限り、職員全員が外部研修に参加できるよう工夫しています。また自施設内でも毎月勉強会があります。	知識や技術の向上を目指していきます。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		担当職員と児童発達支援管理責任者2名にてアセスメントを行っています。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		担当職員、看護師、保護者様のご意見を元に本計画書作成を行っています。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		発達検査の結果などは、保護者様を通し共有いただきます。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6			名前がなくとも誰の計画なのか理解できるくらい個別性のある計画書を作りたいと思っています。研修会等に参加することで作成技術と知識を更新すること、また保護者様のお気持ちに寄り添うことを忘れずに責任をもって取り組みます。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		基本となるプログラムは保育士が作成を行い、それを元に多職種で検討する流れです。		

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6			集団活動と個別活動のバランスを日によって変える事も検討しています。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		毎日ミーティングにて個別支援計画の再確認、そして前回の利用状況について情報共有を行っています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	1	勤務体系が異なるため、全員が集まることは難しいですが、順番の職員が記録をつけつつ振り返りを実施しています。	情報量がとても多いため、業務日誌の活用を更に工夫するなど、漏れの無い共有に努めます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		業務日誌、ケース記録などを基に改善につなげています。また、毎月事例検討を行うなど、支援の新たな方向性についても模索しています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		担当職員、児童発達支援管理責任者にて行っております。いつもご協力ありがとうございます。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		担当職員、児童発達支援管理責任者、看護師などが参加しています。必要に応じて2名で参加することもあります。	有益な情報共有の場になるよう、分かりやすい伝達を心がけます。スキルアップします。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		適時主治医との連携を実施しています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		会議にてクラージュの見立てをお話するなど、可能な限り子ども達が地域で生活していくことを目指しています。他機関と連携を図り移行をお手伝いしています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		申し送り書を作成し、情報を共有しています。	活動写真等も使い、分かりやすい情報共有を心がけます。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6		県の医ケア児支援センターと連携し、対応しています。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6		交流先も年々増えてきました。今後も様々な地域のこどもたちと交流していきたいと思っています。	交流先を増やしていきます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		連絡ノート、出席ノートまた直接の対話を通し情報共有を行っています。	ご不明ご心配な点があれば、いつでもお気軽にお問い合わせください。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		保護者会での勉強会、または“あおぞらクローバー”を通し子育て方法について共に学ぶ機会を作っています。	進路についての情報、家庭で役立つ医学、感染症に関する事など、様々な情報を保護者様と共有します。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			不明な点があれば、いつでもお問い合わせください。
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		可能な限り保護者様にもご同席いただき、次の計画への検討を行っています。保育の視点、看護の視点、介護の視点など多面的に検討しています。		

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		個別のご相談、また定期的な面談、日々の申し送りなど様々な機会を作り、保護者様と対話の機会を持つようになっています。	次年度は、保護者会等の機会を活用し、個別相談の場面を設けるなど更に工夫します。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		今年度は、きょうだい児イベントを大きく開催しました。大変好評をいただきました。ありがとうございます。今後も毎年継続実施していく予定です。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		ご相談内容には、児童発達支援管理責任者及び担当職員にて対応させていただいております。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		SNSは月に3件以上の更新、また連絡ノート、出席ノート、あおぞらクローバーを通し、子ども達の表情や支援状況を見て頂くよう努めています。	SNSだけに頼らず、紙媒体での発信も継続します。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		毎年研修会を行い、取り扱いについて学び直しを行っています。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		適時、クラスジューで使っている手話やジェスチャー一覧などを共有しています。	言葉だけに頼らず、多様なコミュニケーション方法を取り入れます。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		地域の方々をご招待することなどは実施できておりません。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		防災委員会と協働にて勉強会や訓練を実施しています。	次年度は、緊急時の連絡の取り方について、保護者様と対話の機会を持ちたいと考えます。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6		保護者様と情報共有をしています。必要に応じ医師の指示を仰いでいます。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		保護者様と申し検査結果をお知らせいただくこととしています。食札にアレルギーを明記するなど対応しています。	厨房職員と提供職員にて2重チェックを行っています。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			緊急時の連絡の取り方について、保護者様と対話の機会を持ちたいと考えます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ヒヤリハットを多く出すことを目指し、大きな事故防止に努めます。	リスクマネジメント委員会と連動し、より活性化していきます。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		不適切ケアに関するアンケート。スピーチロックに関するアンケート実施、また年2回以上の勉強会を行いリマインドを続けています。法人の本部にはコンプライアンス委員会もあり適時相談もできます。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		やむなく身体拘束を行う場合の条件等については、研修会で確認しています。心愛会では、身体拘束を行いません。		